

うしく里山の会 広報誌

# さとやま

No. 79 2009年9月号

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1 (牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

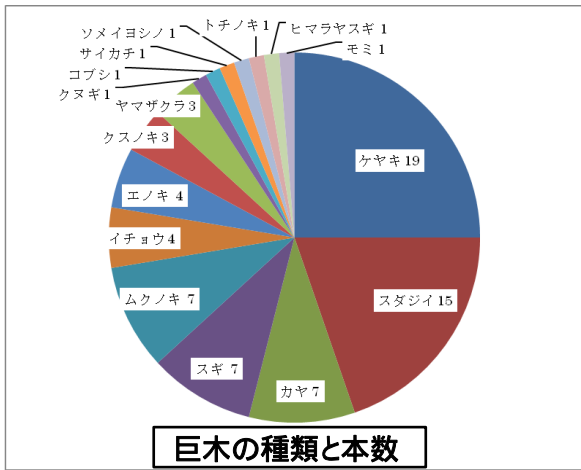
E-mail u\_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>



## 牛久市の巨木 その種類と由来

巨木リサーチ2事業 渡辺泰



### 正直町皇産霊神社 ケヤキと石祠

平成十八年度から二十年度の三年間、牛久市との協働事業で巨木リサーチ事業を実施し、牛久地域の巨木・古木・希少木を含めて百六十三本の樹木を調べました。うち地上・三メートルの幹周りが巨木は七十六本でした。

巨木の樹種数は比較的少なく十六種でした。その内訳は図のようにケヤキが最も多く十九本、スダジイが十五本、カヤ・スギ・ムクノキが七本、イチヨウ・エノキが四本、クスノキ・ヤマザクラが三本、クスギ・コブシ・サイカチ・ソメイヨシノ・トチノキ・ヒマラヤスギ・モミが各々一本でした。このなかで、城中町得月院境内のカヤは牛久市の文化財に指定されています。

これらの由来をみますと、牛久市在来の樹種がケヤキ他九種で最も多く、次いで牛久市外の国内他地域からの移入種がクスノキ・サイカチ・スギ・ソメイヨシノ・トチノキの五種、外国からの渡来種がイチヨウとヒマラヤスギの二種でした。

選定樹の樹高・幹周りを測りましたが、関心の高い樹齢については的確・簡易な測定法がないため、調査を見送りました。そして個人の屋敷内の調査木の選定が不十分だったため、調査漏れの巨木があるものと考えております。

何れも人々が心をこめて育ててきたもので、多くの巨木には根元に石祠が祀られていたり、「しめ縄」が張られており、巨木が人々の精神的支えになっていることが伺えました。これらの巨木が市民共有の自然的・文化的遺産として大切にされ、次代に引き継がれることを願っています。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

# プロジェクト 活動報告



自然観察出前講座

田澤 七郎

## 遠山の谷津田のホタルを見る会体験報告

七月二十四日（金）、恒例の遠山町「つばめ保育園」のホタル観察会が行われました。当日は、夕方六時に当園の運動広場に集合。参加者は年長組の園児とその保護者、及び先生たちの八十四名とサポーターとしての自然観察の森側から講師の石神園長以下、里山の会会員など七名を含めて九十一名でした。

集合後はキャンプファイヤーとマスゲームがおこなわれ、七月下旬というのにまだ梅雨時のようなうっとうしさを吹き飛ばしてくれました。その後、石神講師よりホタルについてのお話や、谷津田にはマムシがいるからの注意があり、いよいよ本番の蛍観察へと出発。正門前のカントリーラインを渡る。

（この道路は片側一車線の直線のため、車はスピードを出すので先生方の日頃の気苦労もさぞやと思われまます）。少し東に歩いて右折し、さらに少しあるいてからまた右折して雑木林の坂道を下り、谷津田にむかいます。その途中、左側のヤブにホタルの群舞に出会い最初の歓声が上がりました。子供たちはもちろん大人たちも大喜びで、中には初めてホタル見たという人もおりました。

ここは東西に延びる遠山の谷津田の東端であり、周囲の山林からの湧水を用水としています。幸いにも工業用水はもちろん家庭の雑排水もあまり流れ込んでおらず、里山としては大変きれいな沢水のようなです。参考までに、この沢水は根古屋川の源流になるそうです。さて、そこから谷津田の北側の暗い山道の数百メートル先が今回の目的地です。期待通り、ここには多数のヘイケボタルのオスが空を舞っており、また、草地にはヘイケボタルのメスとクロ

マドボタルが光を放っていて、まるでホタルの国にいるような素晴らしい情景でした。参考までにクロマドボタルは飛ばないホタルです。（詳しくは昆虫図鑑で）

この日が子供たちの心にどのようにつたか分かりませんが、出来れば良いおもいでとなって、自然を大切にしたいと思ってくれるように願っています。帰園は八時頃、行程は約二キロメートルでした。



蛍観察出発前の講師（うしく里山の会会員）の自己紹介の様子

写真提供 つばめ保育園





里山自然観察隊事業報告

石川 満夫

第三回植物観察会「林地の植物を観察する」

ここ暫く、夏の真最中なのになぜかはつきりしない天気です。夏強い雨が降る曇りがちの日が続いていました。観察日八月八日(土)も同じ様な天気。

当日、午前九時、牛久自然観察の森駐車場に集合したメンバーは新規加入者四名を含め総勢十二名。出発前のミーティングで最近加入した四人が揃って今回参加ということで、渡辺泰さんから改めて観察隊の事業活動の狙い、本年度の具体的な活動内容等を説明。

午前九時十五分、車三台に分乗、最初の目的地向かって出発。現場は奥野生生涯学習センター(グラウンド・テニスコート)隣接の雑木林。下車し現地に向かう途中、グラウンドと雑木林を隔てるフェンスに絡まっている植物類が目に入る。

先ず、葉の裏が白く毛が生え、実が食べられるエビヅル、同じ仲間だが実が食べられないノブドウ。葉が三枚(三小葉)になっているミツバアケビ、そして五枚(五小葉)のアケビ。その茎でザル・カゴを編んだアオツツラフジ。実が美味しいナワシロイチゴ、カラスウリ、ヘクソカズラなど此処だけで十種類以上のつる性植物を確認でき林縁における植物態様を実感。

目的地的な雑木林に入っている。当初此処は管理不十分な雑木林として観察場所を選んだ経緯から草丈が大きく伸びるこの時期、観察できるか心配していたのですが、林内は思っていたより歩き易く大きな困難もなく観察できました。葉が三枚で果実の形が泥棒の足跡に似ているというヌスビトハギ、葉が対生し二段につけているフタリシズカ。葉がモミジに似て黄色い実が美味しいモミジイチゴ。さらにアマチャヅル、ハエドクソウ、シオデなど草本二十三種、ムクノキ、エノキ、ハリギリなどの木本三十一種を確

認、種類と発生量を記録。

その後、午前十一時頃東へ数キロ離れた次の観察地へ移動。この雑木林は良く管理されている所として観察の対象地とした場所。曇天の上、枝葉が繁茂した林内は薄暗く、明け方や夕方と思うのかひぐらし(蝸)の音が喧しく感じられる程。

先ず、丸い青い果実を数個つけたホウチャクソウが何株も目に入っている。そして同じ仲間のアマドコロ。さらにヒトリシズカ、ミゾシダ、キンミズヒキ等々、此処では草本三十種、木本もモミジイチゴ、ハリギリ、ハナイカダなど十八種を確認。

当日、気温は余り高くなり林内での活動でもあったため真夏の観察会としては余り困難なく活動でき午前十二時前には現場での観察を終了できました。



調査活動風景 坂根 輝一 09.8.8



アヤメ受託事業報告

三浦 昭十七

秋のアヤメ園

アヤメ園の年間作業日数は一〇〇日にもなりますが、ハナシヨウプの見頃は六月のわずかに二週間しかありません。冬は凍て付く寒さの中、夏は猛暑の中、年間の労働に比べてハナシヨウプの開花と言う報酬があまりにも短期間で終わってしまうのは寂しくそして残念に思います。秋のアヤメ園にもインパクトのある彩りが欲しいのです。しかもこれ以上労働を増やさずに放って置いて花の咲くものが！

『ヒガンバナ』これです！これしかありません。四年前の今頃知人からダンボール箱一杯ヒガンバナの球根(鱗茎)を貰いました。よしこれで球根をいっぱい増やして三年後の秋にはアヤメ園の畦道をヒガンバナの花で真っ赤に染めて市民の方々に秋のアヤメ園を楽しんで頂くと思いました。

ところが現実はその甘いものではありませんでした。やがて彼岸になって咲いたヒガンバナは広いアヤメ園のほんの片隅にポツリポツリ。ヒガンバナは種が出来ませんので球根が自然に分裂して増えるのを待つしかないのです。これでは私がイメージする秋のアヤメ園になるには二十年かかりそうです。三年ではダンボール百個分の球根が必要になります。

その後も知人や友人に球根を貰ってきては移植していますが、何しろ広いあやめ園 焼け石に水。短期間に効率よく増殖する方法はないものだろうか？

【葉挿し増殖】実験成功

昨年の十月に開花後に伸びた葉を根元から切り取り庭の土に挿しました。六カ月後の今年四月掘り起こしてみると見事に球根が出来ていました。(写真参照、右二本は葉挿ししたものと同等の葉。左二本は六カ月後に球根が育った苗)

予測が的中感動です。

葉挿し増殖を思い付いたのは次の二つのことがヒントになりました。

一、球根から切り離れた葉を庭の隅に捨てましたが一週間を過ぎても枯れませんでした。

二、ヒガンバナは地表から球根までの深さが深すぎる(10cm以上)になると地表から4〜6cmの所に新しい球根を作る性質があることを発見しました。

元の古い球根は上部の新しい球根に養分を移してしまぼんでしまいます。

(球根が深くなってしまう原因は三つありますが今回は紙面の都合上省きます。)

今年「葉挿し増殖」実践スタートです。大量に葉挿しして増殖を一気に加速させたいと思います。但し葉挿しした苗が何年目に花を付けるかと言う事がまだ実証されていません。私は三〜四年とみています。

最近ヒガンバナを移植していますのでさらに増殖速度を増して増殖するものと思います。

五年後には私がイメーにする秋のアヤマ園にかなり近付くのではないかと胸がときめきます。五年後秋のヤマ園乞うご期待!



(右2本)葉挿したものと同等の葉 (左2本)6ヶ月後、葉挿した葉に球根ができた



雑木林応援隊事業報告 雨宮 廣之

観察の森と応援隊

埼玉県より牛久に越してきて十年近くになります。初めは妻が公報で見つけた「ツネさんの畑」への参加でした。妻の運転手のつもりで始めた畑が予想以上に面白く、2年3年と続けていたらすっかりのめり込んでいます。

観察の森の前の畑から第一駐車場に帰る途中で、活動している人達に良く会いました。畑と掛け持ちになり、ちよと炭屋に屋根を掛けています。何となく手伝いをしてそれが今の応援隊の前身「雑木林の会」との出会いです。

そんな切っ掛けで通い始めるようになった観察の森ですが、色々な思い出がいっぱいあります。

畑では、収穫祭、蕎麦の収穫から蕎麦打ち、正月飾り用の田植えからワラボッチ作り、結束の人達とも親しくなりました。

今でも自宅と会社の注連縄は自分で作りま

す。畑塾が終わると、友の会から里山の会設立へ、そして法人取得と発展して来ました。雑木林の



応援隊の活動 雨宮 08.5.4

会は、何度か名前が変わりましたが雑木林応援隊となり、観察の森とムジナの二個所で活動しています。

苦労して取った助成金で揃えてきた機材、木の伐採も覚え、炭焼きも出来るように

なりました。「縄がなえるサラリーマン」で自慢してきましたが、今や「炭も焼ける・・・」が加わりました。メインの炭焼きの他、竹垣の製作、イボ結びも何とか覚ええました。やり直した藤棚、低予算で作った物置、とうとうゆっくり覚えられなかったツルカゴ、妻も参加した草木染め、ビックリした野草の天ぷら、普通では勉強出来ない事、でも本当はこっちの方が重要だと思ってしまう事を沢山勉強出来ました。それもこれも、人との繋がりで出来たことでした。

農薬を使わず虫喰いだらけの旬の野菜、でも自分で作ったものは格別でした。

ちよとお休みさせて頂きますが、何喰わぬ顔でそっと戻って来るつもりですので、その時は、プランクが無かった様に、何事も無かった様に、今まで通りにお付き合い下さい。今はネットの時代です。会報もおとしびみも毎月楽しみにしています。



初期のムジナ 雨宮 03.11.2

街路樹

チーム街路樹20受託事業報告

増田 勝彦

「樹名板の巡回調査を実施して」

市との委託契約も七月に締結して、活動も二年目に入りました。今年三月に、市内街路樹に四〇〇枚の樹名板を付け、今年度はメンテナンスと、新たに一三〇枚の新規プレートをつけることになっていきます。内十九枚は、取り付け後にヒビが入り、割れの目立つ板との交換です。

樹名板は、ヒノキの間伐材を斜めにカットしてあり、厚さは約十二〜二〇mmの間で様々です。購入先の森林協会からは、取り付け後に割れが発生することがあるとの説明を受けていますが、全体の何パーセントかは予測外でした。なぜなら、一本一本の原木の採取部位によって木の特性が異なり、元の原型を保っているものからヒビ・割れに至るものまで、多種多様だからです。樹名板の寿命は、取り付け後三年と見ています。

【第一巡回調査】

五月に第一巡回調査を実施しました。JR牛久駅の西と東、ひたち野の三地区を、各地区毎に正副班長、そしてメンバーの計四名が乗車して現地に赴き、まず樹名板の位置を確認します。次にヒビから割れに変化している割れ幅を測定して、油性の筆記具で裏にメモをすると同時に、専用のチェックシートにも記録します。結果、A地区二〇枚、B地区四二枚、C地区四一枚の計一〇三枚に割れが発生しており、何らかの対策が必要との結論が出ました。実に全体の一ノ四に当たる数です。想定外の、第一回の調査結果でした。

【第二巡回調査】

巡回調査は契約で、二カ月に一回実施することに

なっています。内、年二回は、取付け板の全数確認を行います。

七月の巡回調査は前回の反省にたつて、グループ毎の主観を排して結果が公平に得られるように、チェックシートに5mm以上、7mm以上、9mm以上の割れ幅の項目を作り、記入するように工夫しました。7mm以上の割れを交換対象としましたが、交換は二四枚と大幅に減少しました。委託契約の交換対象が十九枚ですから五枚程度不足しますが、人通りの多い目立つ樹木を優先して、人目につきにくい樹木から外して取付けます。

【温度・湿度に大きく影響される割れ幅】

梅雨入りして間もなく、メンバーから、樹名板の割れがなくなっているとの連絡を受けました。一〇三枚あった内の一枚を残しては、割れ目が閉じて、ヒビに変わっていました。

木は伐採された後も収縮膨張を繰り返して、日夜形状が変化していることを、あらためて知ることになりました。



割れの出た樹名板

増田勝彦09.7.19



親子農業体験講座

江原 美和子

夏の収穫祭

七月十八日、小雨が時々ぱらつく曇り空のもと、じゃがいもの収穫祭がありました。四月、たね芋の植え付けからスタートし、五月には丈夫な芽を残す芽かきをしました。毎回、長ぐつの中まで泥だらけになる程かけまわり、土に触れるよい体験ができることに感謝しています。作物の育つ様子を観察しながら、自然の中での季節の変化も感じ取ってくれたことでしょう。

さて、収穫はお父さんたちも含めて大人十名程で大きなシャベルで畑を掘りおこし、子どもたちは小さな軍手をはめて集めていきました。いろいろな大きさのじゃがいもがどんどん出てくるのが面白くて、満足した様子でした。

お楽しみのもじゃがいも料理は、チーズとケチャップをのせたピザや煮込んだスープなど三種類。子どもたちはハンバーグの形に丸めるお手伝いもしました。ほかほかしておいしかったとうれしそうでした。

お土産もたくさんいただきました。

ポテトサラダやカレーライス、自分たちで育てたじゃがいもをたべるとは、子どもにとって大きな喜びになります。



じゃがいもの収穫  
小さくても、自分の作ったじゃがいもは  
とても大切！  
09.7.18

八月運営委員会からのお知らせ  
坂弘毅

第二回うしく里山秋祭り

十一月二十九日(日)に観察の森一帯で開催します。

当日は「うしくの里山フォトコンテスト」の表彰式とセミナーも同時開催します。後日、実行委員会を立ち上げ、詳細を検討して参ります。

会員のスキルアップ研修を企画しました。

一・三富企画展

担当 坂

埼玉県川越近郊に広がる武蔵野の雑木林は、江戸時代、川越藩主であった、柳沢吉保が開拓した三富新田が日本の循環型農業の見本のような地域となっています。面積三二〇〇ヘクタール、この雑木林を保全する地域住民とボランティアが一堂に会して、その取組を企画展として開催されます。里山の会としては、秋祭りの参考になる催しとして注目しています。

参加される方は、

九月二十二日(火)九時午久駅改札前集合

(事前申し込み不要)

行き先 西武新宿線本川越駅より三分

費用 交通費(一四〇〇円)・昼食代

(雨天中止)

二・三富新田を見る

担当 坂

前述の三富企画展とは別に、本当の武蔵野の雑木林を見学しませんか。

ここは文化庁も注目する地域で、短冊形地割りの遺構と循環型農業をいまだに実践する地域として注目されています。この地域を管轄する埼玉県川越農林振興センターの案内で現地を回ります。

埼玉県所沢市、三芳町一帯

日程は先方と調整中ですので、決まり次第ご連絡いたします。



にほんの里100選 No.23  
三富新田(さんとめしんでん)  
江戸期の地割りを生かす  
(にほんの里100選HPより)

八月理事会からのお知らせ

坂弘毅

会の財政安定化に向けて

里山の会は今九月末で法人取得から丁度五年が経過します。この間会員の皆様のご協力で、地域に根づいた里山の会として認知されつつあります。しかし、財政的には決して余裕があるわけではなく、常に厳しい状態が続いています。特に受託事業となると事業完了後の支払いが実態であります。

このような実態に鑑み、八月理事会におきまして、財政安定化に向けての諸方策を検討しました。

(決定事項)

・理事就任時に、仮称(運営協力金)という形で三万〜五万円を会の会計に貸し出し、会は事業の運営資金として利用する。運営協力金は理事退任時には本人に全額返却する。

このように決定しました。

次回第三回定期理事会 十月十八日(日)

会員のみなさん

「新型インフルエンザ」が急速に広がっています。

体調管理に

充分気をつけて下さい





牛久自然観察の森だより

齊藤 孝

秋の特別展示「鳴く虫展」今年も開催!

観察の森の九月の風物詩と言え、ネイチャーセンター中に響き渡る虫の音ですね。今年も日本鳴く虫保存会茨城支部の小林さんにご協力いただき、九月五日(土)から九月十三日(日)まで「鳴く虫展」を開催いたします。今回は「文部省唱歌・虫のこえ」にあるマツムシやスズムシ、キリギリス、ウマオイ、クツワムシなどを展示紹介します。そして、毎年大勢の方に参加していただいている「スズムシの配布会」は、九月六日(日)の午前九時よりネイチャーセンター前で行います(当日先着百組の方)。また、当日は午前十時より小林さんによる「スズムシの育て方講座」も行います。



鳴く虫展最終日の九月十三日(日)には「マツムシの育て方講座」を開催します。受講者にはマツムシの雄雌数匹をセットにして配布します。こちらの講座は事前予約が必要ですので、九月四日(金)午前九時から電話にてお申し込み下さい。定員は二十名、参加は無料となっております。

【鳴く虫展詳細】

開催期間 九月五日(土)～九月十三日(日)

九月七日(月)は休園日

開場時間 午前九時～午後四時四十五分

(問い合わせ先) 029-874-6600 担当:渡邊



結束町みどりの保全区

エコアップ作戦

齊藤 孝



うしく里山の会全体事業

「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」

参加者募集のお知らせ

九月は四日(金)と二十日(日)の実施となります。今回の活動場所は第二駐車場付近の杉林です。元気な森づくりを行います。

活動日時 九月四日(金) 午前九時～十一時半

二十日(日) 午後一時～三時半

集合場所 ネイチャーセンター一階倉庫前

(予約不要/雨天・強風時は中止、会ホーム ページに情報掲載)

持ち物 長靴、軍手、タオル、帽子、飲み物 (長袖、長ズボン)

刈払い機やチェーンソーの使用は資格所有者に限りません。

(問い合わせ先) 029-874-6600 担当:石神

今月の古木・希少木 No.29 サワグルミ

クルミ科サワグルミ属の落葉高木で、高さ十～二十m、ときに三十mにもなります。北海道から九州の山地の川沿いに生えています。昨年の白神山地の研修旅行では、ブナ林散策路の入口の溪流沿いにまず目に入るほどたくさん生えていました。

牛久には自生はありません。希少木として、牛久小学校近くの小公園に三本と隣の池のほとりに一本植えられています。小公園の北隣はヨシの多い茂る湿地であることから、サワグルミが水の近くが適地であることがよく分かります。

葉は互生する奇数羽状複葉で、長さ二十～三十cm、小葉は十一～二十一枚あります。雌雄同株ですが、花は雌花序と雄花序は別で、枝先に雌花序、その下の葉腋に雄花序がたれ下がります。今の時期、写真のような緑の果序がたれ下がってみえます。長さは三十～四十cmもあり、果実は十～三十個ついていて、二枚の翼をもっています。英語名の訳は「翼のある日本の堅果(クルミ・クリなど)」です。果実はクルミのように食べられません。かつてはキリ代用材として下駄に使用されました。現在はマツチの軸木やパルプに使われています。

(横山さえ子)



下がる果序のサワグルミの先にたれ下がる 09.7.23

## 9月の里山カレンダー

活動日は天候等都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
		1 (休園日)	2 (休園日)	3 (休園日) アヤマ園(受) 7:00アヤマ園P	4 エコアップ作戦 9:00NC	5
6	7 (休園日) アヤマ園(受) 7:00アヤマ園P	8 森の畑 9:30畑	9	10 アヤマ園(受) 7:00アヤマ園P 巨木リサーチ2(特) 8:30市役所玄関	11	12 里山自然観察隊 9:00森P 親子農業体験講座 9:00畑(雨天20日) (会報等原稿不切)
13 雑木林応援隊 9:00ムジナ	14 (休園日) アヤマ園(受) 7:00アヤマ園P	15 森の畑 9:30畑 チ-ム'街路樹20(受) 8:30市役所 (樹名板巡回管理)	16	17 アヤマ園(受) 7:00アヤマ園P	18	19
20 運営委員会9:00NC フォトコン実行 委員会10:30NC エコアップ13:00NC	21 (敬老の日) アヤマ園(受) 7:00アヤマ園P	22 (国民の休日) 森の畑 9:30畑	23 (秋分の日)	24 アヤマ園(受) 7:00アヤマ園P	25	26 巨木リサーチ2(特) 8:30市役所玄関 チ-ム'街路樹20(受) 13:00市ボランティアC (交流会)
27 雑木林応援隊 9:00炭小屋 チ-ム'街路樹20(受) 8:30市役所(研修見学) 会報発送13:00NC	28 (休園日) アヤマ園(受) 7:00アヤマ園P	29 (休園日)	30 (休園日)			

凡例 森:観察の森. NC:観察の森ネイチャーセンター. P:駐車場. 炭小屋:観察の森駐車場奥の炭小屋. 畑:観察の森駐車場奥の畑.  
コジュケイ:観察の森内コジュケイの林, 観察舎畑:観察の森内観察舎前の畑, ムジナ:結束町の雑木林(通称ムジナの里), 市役所:牛久市役所本庁舎,  
アヤマ園:三日月橋観光アヤマ園, (受):受託事業, (特):特別事業, (休園日):観察の森休園日, ボランティアC:牛久市ボランティア市民活動センター

## 編集後記

今年の梅雨はすつきりしない明け方でしたが、やっと夏らしい暑さが続きました。しかし、早くも九月、子どもたちの楽しい夏休みも間もなく終わりです。

五月のこの欄に書きましたが、九月九日は重陽(陽の数である九が重なる意)五節句の一つで、菊の節句でもあります。六日の菖蒲(あやめ)と十日の菊という言葉がありますが、それぞれ一日遅れのために役に立たないという意味です。約束の時間に遅れてきた人に、「今頃来ても六日の菖蒲だ」等につかうようです。

菊と言えば、六月から七月にかけて空き地や道路沿いに黄色く咲く「オオキンケイギク(大金鶏菊)」。花がきれいなあまり庭に植え込む人が多いようですが、二〇〇六年に特定外来生物に指定されたため、栽培・譲渡・販売が禁止され、個人が栽培しても懲役又は罰金が科せられますので注意が必要です。

先日、NHKのテレビを見ていたら、最近「トノサマガエル」が、各県で絶滅危惧種に指定されていると報じていました。牛久のアヤマ園にたくさんいるのになぜなのか、調べてみたら「トノサマガエル」はアカガエル科に分類され、日本では本州(関東平野から仙台平野は除く)四国、九州に分布し腹部は白(ダルマガエル・トウキョウダルマガエルは網目状の斑紋がある)ということ関東地方にはいないようです。そういえば今の子どもたちにカエルを見せると「トウキョウダルマガエルだ」私たちは「トノサマガエル」と言っていたのに・・・子どもたちの方が正しかったのです。なぜ「トノサマガエル」が減っているかですが、稲の中干し(田んぼの水を抜いてしまう)に影響を受け、おたまじゃくしが死んでしまつからだそうです。(佐藤輝雄記)

## 広報委員会からのお知らせ

次号9月号の発送は9月27日(日)午後1時からです。お手伝いいただける方はネーチャーセンターまでお越しください。よろしく願いたします。